

## 会 議 録

会議名 (審議会等名)		令和4年度第1回相模原市子ども・子育て会議		
事務局 (担当課)		こども・若者未来局 こども・若者政策課 電話042-769-8315 (直通)		
開催日時		令和4年7月26日(火) 午後6時から午後8時		
開催場所		現地出席とオンライン出席によるハイブリッド開催 (現地会場: 相模原市役所 本庁舎本館2階 第1特別会議室)		
出席者	委員	12人(別紙のとおり)		
	その他	0人		
	事務局	8人(こども・若者未来局長、こども家庭支援担当部長ほか6人)		
公開の可否		<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	3人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第		1 開 会 2 あいさつ 3 議 題 (1) 第2次相模原市子ども・子育て支援事業計画の中間年の見直しについて 4 その他 (1) 令和4年4月1日現在の保育所等利用待機児童数について (2) 令和4年5月1日現在の児童クラブ待機児童数について (3) 相模原市保育者ステップアップ研修 令和3年度研修実績と評価について (4) ヤングケアラーに関する研修について 5 閉 会		

## 議 事 の 要 旨

## 1 開 会

## 2 あいさつ（こども・若者未来局長）

## 3 議 題

（1）第2次相模原市子ども・子育て支援事業計画の中間年の見直しについて

第2次子ども・子育て支援事業計画の中間年の見直し方法について、事務局から説明を行った。委員からの意見、質疑応答は次のとおり。

（片山会長）見直しの方法については、国から示されたものが先行するという形になるのか。

（事務局）国から指示があったところについては、見直しの要否を必ず確認させていただく。

（片山会長）見直しをすることで、どういうことが今後起きてくるか、ということをもう少しご説明いただきたい。

（事務局）毎年量の見込み・実績に対する評価を実施しているが、中間年以外では、利用者等へのアンケート調査は実施していない。計画の中間年及び新しい事業計画の策定にあたっては、アンケート等を実施し、利用者の皆さまの声を聞きながら、質の評価をさせていただき、量の評価と合わせて今後の課題を洗い出し、次への方向性を示させていただく。

（片山会長）委員の皆さんには、すべてを理解して、意見をいただくことは現実的ではないと考えているが、所属団体の立場で関わるところを見ていただき、その状況の変化や今後の方向性を踏まえてご意見をいただきたい。

（朝比奈委員）印象として、量が確保されているかどうかで評価するということが際立っているようだが、質はどうかということが実際は大事なことだと思う。

保育園で言えば、待機児童さえいなければそれでいいということではなく、どういう状態で保育されているのかということが重要であり、質の評価が重要だと考えている。一方で、質の評価は非常に難しい面があり、利用者等の満足度だけで評価してしまっているのかというのは非常に難しい。

具体的な評価の方法について述べることはできないが、質の評価をどうしていくのか、ということはどこかで議論していただいた方が良いのではと考える。保護者の満足度が高ければ質の高い保育である、と単純に言ってしまうのはどうかと思うので、利用者の声だけではなく、もう少し多面的な評価があってもいいのではないかと思う。

(藤井委員) 国では、放課後児童対策の対象は小学1年生から6年生までと言われて  
いるが、市では小学1年生から3年生までを原則で受け入れて、4年生以上はご  
く一部の施設が何人かを受け入れている状況である。4年生以上のお子さんは、  
途中から民間に移る方もいるし、児童クラブの利用をあきらめてしまう場合もた  
くさんある。自身が運営している児童クラブでは、100人以上のお子さんを受  
け入れているが、うち25人が4年生以上であり、市で受け入れてもらえないこ  
とを理由に4年生から入ってくる子どもが5～6人、多い時は10人近くなる。  
市の学童保育でいつから4年生以上を受け入れることができるのか、見通しを示  
していただけたら、厳しい中で民間クラブを運営しているため、ありがたい。

(事務局) 現在モデル事業として一部4年生まで受け入れているところや、障害のあ  
るお子さんは6年生まで受け入れているところがある。今後4年生から6年生を  
どのくらい市で受け入れることができるのかを検討していく。

人口推計や児童の推計を確認しているが、児童の数は減っていても市立児童ク  
ラブは、入会申請数は増加している状況である。児童は減っていても、いつにな  
ったら入会希望の方がどのくらい減るかは、慎重に検討していかなければなら  
ないと認識している。どこかのタイミングでは、そういった方向性を示していかな  
ければならないと考えている。

(藤井委員) 現在、働く女性が増え、共働きが家族の体制になっていて、見通しがつ  
くということはないと思っている。そういうことを考えると、市が今までやって  
いる1年生から3年生まで、と区切ることもおかしい話で、保育園にいた子ども  
は全員学童クラブが必要だという認識を持っていただきたい。

(片山会長) 児童クラブに関して、公立のクラブの利用希望が多いことについては、  
これまで使用料における民間と公立の格差が、子ども・子育て会議で話題になっ  
てきた。藤井委員が話題にしたことは、子どもたちのためにとという視点で取り組  
めると良いと思う。

(西谷委員) 質の評価にあたり、利用者からの評価というのは、アンケートの方法や  
量などを決めているのか。

(事務局) アンケート調査については、内容についてはまだ決めていないが、工夫し  
て幅広く調査していきたいと考えている。利用者全員に聞くことは難しいとは思  
っているが、できるだけ多くの方の声を集めるため、内容等については工夫して  
まいりたいと考えている。

(園田副会長) 資料1-2は、中間年の見直しを要・不要で判断する様式になってい  
るが、どのような仕組みで誰が判断していくのか。

また、大きな話になってしまうが、中間年の見直しをして、次の計画にも反映  
されるということだが、子ども・子育て支援法ができたときは、待機児童が問題  
になっていた頃であるため、子ども・子育て会議においても保育所定員の過不足

について議論することが重要な役割の一つであったと認識しているが、今は多くの自治体で待機児童がいない状態であり、定員割れをどうするかという時代になっている。これからの子ども・子育て会議は、これまでとは異なる軸が必要になると考えている。児童福祉法が改正され、子どもと家庭を分離するのではなく、より包括的な支援をするよう謳われている。中間年の見直しでこれまでの実績を評価するという視点もあるが、これから令和6年度以降にどの事業に優先順位をつけていくか、ということは時代の変化や法改正を視野に入れていく必要がある。

待機児童の過不足を議論していた時代とは、今はだいぶ変わってきているので、新たな時代の今望まれている、今課題となっているものについて、どう評価するかという軸が必要ではないかと思う。必要な事業であれば予算をつけなければならないが、すべてに手厚く予算を付けるのは難しいため、どこに濃淡をつけるかを考えていかなければならない。例えば学童保育が話題になっているが、その領域だけでいいかということ、もう少し包括的に見る必要があると考えている。

(事務局) まず、見直しの要否についてはアンケート等によっていただいたご意見や実績をもとに、市として見直しの要否を検討し、子ども・子育て会議において様々なご意見をいただきながら、最終的には市として要否を判断させていただく。

次期の計画については、国の方ではこども家庭庁ができることもあり、現計画を策定したときとは状況が異なる。最近では、ヤングケアラーなどの新たな問題も出てきており、市として対応していかなければならない中で、次期計画に向けて国がどのような考え方を示してくるかもあるが、新しい課題等を含めた計画にしていく必要があると考えている。

(園田副会長) 計画の策定にあたり、国からの方針は示されると思うが、地方版子ども・子育て会議で議論していく中では、相模原市の事情を反映し実態に即したものにすることが必要だと思う。よくあることだが、マイノリティは目立たないと本当に必要であっても端に寄せられ、声の大きいところが拾われる傾向があるため、市の独自性をしっかりみて、公平性を担保していただきたい。

(事務局) 子ども・子育て会議には各分野を代表してご出席いただいているため、知見をいただきながら、よりよい計画にしていければと考えている。

(片山会長) この会議に、色々な立場の方が出席していただいているというのは、園田副会長がおっしゃったことの実現に一步近づく体制であると考えている。だからこそ、各委員はそれぞれの立場からの意見や疑問を発言していただきたいと思う。

(野口委員) 自身が所属する団体には、障害のある小学生のお子さんが1人、保育園に通っているお子さんが2人いる会員がいる。保育園の方が寄り添ってもらえたら、お母さんは上のお子さんに力を注いで、2人のお子さんを安心して保育園に預けられるということがあると思う。保育園等で見ているお子さんだけではなく、

そのご家庭にどんなお子さんがいるか、お母さんがどんなことに困っているかということまで、寄り添ってもらえるといいなと思う。

また、帰省した家族から、相模原市には未就学児が気軽に遊べる場所が少ないという声があった。子どもセンターなどに行っても、小学生が来ると小さい子はいられない。気軽に小さい子がいられる場所がもう少しあるといいなと思う。

(西谷委員) 実は、相模原市は子育て広場という小さい子どもが集まれる場所を作っている。大和市などは大きい建物で設備の整った施設があるが、数が少ない。相模原市は子どもセンター等、規模は小さいができるだけ近くで利用できるように整備しており、市によって少しやり方が違うのだと思う。お近くにはないか、探してみていただきたい。

(事務局) 西谷委員からご説明いただいたとおり、市内でご近所にいくつも子育て広場を設け、居場所づくりをしているが、お手元にそういった情報が届いていないことは課題であると感じた。

市では、こんにちは赤ちゃん事業等で新生児のいるご家庭を訪問した際に、地域の育児情報も含めて情報提供させていただいている。野口委員のご家族は市外から帰省した方であったために情報をお届けできなかったと考えられるが、市内で出産された方には地域で利用できる子どもの居場所や子育てサービスをご案内しているため、今後も充実させていきたいと考えている。

(布施委員) 朝比奈委員からお話のあった質的な取組について。量の評価は、数字として表れるので評価しやすいと思う。朝比奈委員のおっしゃる「質」はどこを評価してほしいと思われているのか。具体的な項目があるようであれば、その項目を列挙した部分とアンケートの自由記述で回答いただいた部分をうまく組み合わせることで、質の評価を均一化できるのではないかと考えた。

また、児童クラブに関しては、実際に利用している方の声の一つのデータとなって、実際に公的な支援を求めているのかどうか、求めているも行政ができないということであれば直接的に施設をつくらずとも、補助や助成で何らかの支援はできるのではないかと。100%ではないけれども、何らかできる措置を考えるのも一つではないか。

(馬場委員) 民生委員として活動している中で、児童クラブを3年生で卒業し、4年生からどうしたらよいか、という相談を受けることが最近増えた。地域には、子どもセンターや児童館があるので、放課後の少しの時間でも安心を得たいのであれば、こういった施設は支援員いるので、利用してはどうかと声掛けをしている。夏休みは保護者の方が子どもを安心して留守番させたいという気持ちからか、児童館などを利用されるお子さんが増えているのではないかと。児童クラブを卒業するタイミングでは、民間の児童クラブに移ることを考えている方がいるが、1年くらいすると、習い事に力を入れる方が多くなるのか、民間の児童クラブを

やめたという声もあった。ただ、ここ何年かでは、以前に比べると4年生以降どうしたらよいか、といった相談を耳にするようになった。

(片山会長) そういった状況は、地域によって違いがあるのか。

(馬場委員) 橋本地域を担当しているが、地域としては橋本、旭、宮上は市内では児童クラブを利用している人数がかなり多い。モデルケースとして4年生も利用しているところもあるが、橋本地区はなかなか4年生以上が利用するのは難しい状況だと感じている。

(神原委員) 発達障害のお子さんを対象とした放課後デイサービスがたくさんできていて、色々な選択肢ができたと思っていたところであるが、この見直しの対象になっているのは、公立の学童クラブのみなのか。

(事務局) 対象は公立だけではなく民間の児童クラブも含める。

(片山会長) 放課後デイサービスは地域にたくさん設置され、各保育施設への案内を受けており、数の増加を感じているところである。

(野口委員) 放課後デイサービスがたくさんあり、助かっているお母さんはたくさんいらっしゃると思うが、預けるのが当たり前になってしまっている状況があり、少し問題だなと思っている。今まで、預ける場所を要望してきた立場のため強くは言えないが、基本的には親が楽しく子育てするのを助けてもらいたいと思っていた。放課後デイサービスのサービスとして、学校に迎えに行ったり毎日預かったりするような状況がある。質が良いところであればいいと思うが、色々な事業者があり事業者の見極めなど、問題はいろいろあるのではないかと感じている。

(朝比奈委員) 質の評価は利用者の声だけではなく、担っている側が物的・人的にどういった環境で保育を担っているかということや、どういう形を目指してやっているかということも質の評価の一つだと思うし、色々な視点で評価しないといけないと思う。待機児童が少なくとも、保留児童が多いという現状もある。どういう理由で保留になっているか等分析していく必要があり、評価のやり方も工夫していく必要があると感じている。

(西谷委員) 次の会議の時には調査の結果が出てきてしまう。それぞれの分野で調査の仕方等も違うと思うが、どんな調査をするのかもわからないまま報告を受けるという形になるかと思うが、どうなのかと思った。

(事務局) 10月に開催する予定の会議で評価の案をお示しし、委員の皆さまからご意見をいただきたいと考えている。10月にお示ししたものが確定というわけではなく、必要に応じて修正させていただく。

(こども・若者未来局長) 市から何かしらの形をお示ししないと、ご議論いただくことも難しいと考えているため、まずはお示ししてご意見をいただきたいと考えている。次の会議の頃には、こども家庭庁の動きも見えてくるであろうという中では、国の動きも含めて、議論していただく必要があると考えている。

(神原委員) いち保護者としてご意見させていただくと、自分が子育てをしている時には、子育ての方針が合うところが当時で言う無認可だったので、その保育園を利用し、市立の児童クラブは利用時間が短い等条件が合わなかったことがあり、市の保育園や児童クラブを一度も利用せずに子育てをしてきた。質の高いところ、ニーズの高いところを評価してもらって、そういう保育園や児童クラブが増えるとうれしいという思いがある。

(野口委員) 利用者だけではなく、勤務している職員からも足りないところを聞くようなアンケートを実施していただければもっと新しいことを考えていけると思う。

(朝比奈委員) なかなかものさしをひとつにできないということはあるが、施策の体系の一番上に「子どもの権利を大切にした取組を推進する」ということが書いてある。本当に子どもたちのための保育や教育、子育て支援になっているのかを確認できる質問項目を設けてほしい。

#### 4 その他

(1) 令和4年4月1日現在の保育所等利用待機児童数について  
質疑・意見なし

(2) 令和4年5月1日現在の児童クラブ待機児童数について

(藤井委員) 保育者ステップアップ研修の取組は素晴らしいものだと思う。学童保育の支援員に対しての研修も、もっと市独自のものがあればいいと思う。支援員の質の向上は、保育士の質の向上と同様に重要なことであるので、ぜひお願いしたい。

(3) 相模原市保育者ステップアップ研修 令和3年度研修実績と評価について

(片山会長) オール相模原での研修は、大変特色のある取組として評価されていると承知している。さらに充実できるような仕組み、進め方をしていただきたい。先ほどから出ている相模原市の保育の質、子どもを育てる環境の質を向上させる一つとなっていくと思う。

(4) ヤングケアラーに関する研修について  
質疑・意見なし

## 相模原市子ども・子育て会議委員名簿

(五十音順)

	氏 名	推 薦 団 体 等	出 欠
1	朝比奈 太郎	相模原市私立保育園・認定こども園園長会	出 席
2	◎ 片 山 知 子	元 和泉短期大学児童福祉学科教授	出 席
3	神 原 由香里	相模原市立小学校長会	出 席
4	○ 園 田 巖	東京都市大学人間科学部准教授	出 席
5	田 川 継 世	一般社団法人 相模原市ひとり親家庭福祉協議会	欠 席
6	手 塚 美 咲	公募市民	出 席
7	永 保 貴 章	一般社団法人 相模原市幼稚園・認定こども園協会	欠 席
8	西 谷 八千代	みらい子育てネットさがみはら連絡協議会	出 席
9	野 口 和 代	特定非営利活動法人 相模原市障害児者福祉団体連絡協議会	出 席
10	馬 場 眞由美	相模原市民生委員児童委員協議会	出 席
11	早 坂 淳 史	日本労働組合総連合会神奈川県連合会 相模原地域連合	欠 席
12	藤 井 春 美	相模原市学童保育連絡協議会	出 席
13	布 施 昭 愛	相模原商工会議所	出 席
14	本 田 恵	公募市民	出 席
15	三 浦 友 則	相模原保育室連絡協議会	出 席

◎ 会長 ○ 副会長